



年間第 6 主日 (ルカ 6:17,20-26)

神の国はあなたがたのものである

今日一列目に座っている二人は、洗礼を受ける兄妹です。来週には初聖体を受けます。きっと楽しみにしていると思います。二人は、お母さんと一緒に神父様のところに初聖体を受けたいですとお願いに来ました。神父様はすぐに「もちろんいいですよ。お安いご用です」と言いたかったのですが、少し考えさせるために厳しいことを言いました。

二つ、厳しい質問をしました。覚えているでしょうか。一つ目の質問は、「初聖体を楽しみにしていると思うけれども、『楽しみにしていた初聖体が終わったから、教会に行くのはや一めた。』こんな気持ちだったら、洗礼も初聖体も受けられません。どうしますか？」この質問に妹さんは立派に答えてくれました。『初聖体のあとも、続けて教会に行きます。』

もう一つの質問はこうでした。「これからもしかしたら、小学生中学生になって、習い事や部活に行くかも知れません。『部活で忙しくなったから、教会に行くのはや一めた。』こんなふうになるなら、洗礼も初聖体を認めることはできません。どうしますか？」この質問にも、立派に答えてくれました。『小学校に入っても中学生になっても、続けて教会に来ます。』」中田神父様はこの返事を聞いて、約束を守ってくれることを信じて、洗礼と初聖体を授けることにしました。必ず約束は守ってください。お願いします。

神父様には小学生の時の忘れられない出来事がいくつかあります。その中の一つを、今日の洗礼式と、中学生がお昼二時から受ける堅信式に役に立てて欲しくて話したいと思います。ご飯としょう油の話です。

神父様のお家は、初めのうちお父さんが船の仕事で頂く給料で生活していました。お父さんは1ヶ月のうち27日働いて3日帰ってきていました。お給料を受け取って、それですべてをしなければいけません。お母さんは働きに出ず、子供達と過ごしていました。

昼ご飯の時です。ご飯としょう油だけでした。「お母さんおかずは？」と聞いたら「ない。ごめんね」と言われました。他にもお金が出ていくので、とうとうおかずが買えなくなったのです。そんな時に、教会の班の班長さんがやってきて、教会費をお願いしますと言っています。

お母さんは用意していた封筒を班長さんに預けました。その時子供の私は、「おかずがなくても、教会費は必ず払うんだな」と思ったのです。お母さんは私たちにこう言いました。「神様が生かしてくださるのだから、神様のためのお金は減らすことはできない。」神父様はその時に、私たち子供はご飯としょう油で生かされているのではなくて、神様に生かされているんだなと覚えたのです。

神父様は時々、お母さんが学校の担任の先生から「子供さんがいつも同じ服を着ています」と言われているのを聞いていました。服を持ってなかったからです。だから神父様は友達から「着たきり雀」と言われ

ていましたが、私を生かしてくださっているのは神様だと知っていたので、何を言われても平気でした。

忘れないでください。今日洗礼の恵みをくださった神様が、二人を生かしてくれるお方です。来週初聖体のお恵みを与えてくださり、中学生になった時に堅信のお恵みを与えてくださる神様が、あなたたちを生かしてくださるお方です。ですから、これからも続けて教会に来てください。神様の恵みを受けて、神様に頂いた永遠の命を大切にしてください。二人が約束してくれることを信じて、洗礼を受けたいと思います。

(日曜9時以外のミサの説教のために) 今週の9時のミサで、二人のお子さん、兄と妹が洗礼を受けます。9時のミサではその二人に向けて話をする予定です。そのままの話をするわけにはいけないので、内容をかいつまんで話したいと思います。

お話しした二人は、お母さんと一緒に初聖体を受けたいですと私のところをお願いに来ました。すぐに「もちろんいいですよ」と言いたかったのですが、少し考えさせるために厳しいことを言いました。一つ目の質問は、「楽しみにしていた初聖体が終わったから、教会に行くのはやめた」では困るとはっきり言いました。妹さんは「初聖体のあとも、続けて教会に行きます」と立派に答えてくれました。

もう一つ、「これからももしかしたら、部活で忙しくなったから、教会に行くのはやめた」となるかも知れない。大丈夫かと。この質問にも、立派に答えてくれました。中田神父は子供達の立派な返事を聞いて、洗礼と初聖体を受けることにしました。

私は続けて、小学生の時の忘れられない体験を話しました。ご飯としょう油の話です。実家は、初めのうち父が船で稼いだ給料が全てでした。遠洋漁業で1ヶ月のうち27日働いて3日帰ってきていました。給料を受け取って、それですべてを賄わなければなりません。

ある日の昼、ご飯としょう油だけ並んでいました。「お金が底をついたのだ」と分かりました。そんな時に、教会の班長さんがやってきて、「教会費をお願いします」と言われました。

お母さんは用意していた封筒を班長さんに預けました。子供ながらに、「おかずがなくても、教会費は必ず払うんだな」と思ったのを覚えています。母は信念を曲げない人でした。「神様が生かしてくださるのだから、神様のためのお金は減らすことはできない。」

私は時々、母が学校の担任の先生から「子供さんがいつも同じ服を着ています」と言われているのを聞いていました。友達からも「着たきり雀」と言われていました。何を言われても平気でした。私を生かしてくださっているのは神様だと知っていたからです。

洗礼を受ける二人にこれだけは伝えたい。今日洗礼の恵みをくださった神様が、二人を生かしてくれるお方です。次週初聖体のお恵みを与え、中学生になった時に堅信のお恵みを与えてくださる神様が、あなたたちを生かしてくださるお方です。二人が続けて教会に来て、神様に頂いた永遠の命を大切にしてくれると信じ、洗礼を受けたいと思います。